

# (財)国連大学協力会 2009 年度事業計画

## FY2009 Operational Plan of the Japan Foundation for United Nations University (Revised Draft)

### 【基本方針】【Basic guidelines】

(新)

2007 年 9 月に就任したオスターヴァルダー国連大学新学長は、着任早々より新構想を提唱してきたが、2008 年 12 月の国連大学理事会において、国連大学本部に新研究所を設立すること、及びその研究所を基盤として大学院教育を実施する旨の決議を得た。それに基づき、2009 年 1 月、国連大学本部に「サステナビリティと平和研究所 (UNU-ISP)」を新設した。UNU-ISP では、従来「環境と開発」「平和とガバナンス」の 2 つのプログラムによって進めてきた学術活動を、「サステナビリティと平和」という総合的なテーマのもとに、「地球変動とサステナビリティ」、「国際開発と国際協力」、「平和と安全保障」の 3 領域にまたがる学際的な研究活動を展開する。また UNU-ISP は、ガーナ共和国の国連大学アフリカ天然資源研究所 (INRA) とツイン研究所の構築を目指して、アフリカにおける活動を強化する等の新機軸を打ち出した。さらに国連大学は、近い将来この研究所に大学院を設置し、修士及び博士の学位を授与し、より高度かつ専門的な立場から地球課題解決に取り組む人材養成に着手する計画である。この大学院は、日本をはじめとした世界のトップクラスの大学との連携を視野に入れている。

そこで、(財)国連大学協力会における 2009 年度の活動は、これまでの国連大学の諸活動の実績を考慮しつつ、国連大学における新計画の方向性や内容を強く認識し、速やかに新計画に沿った支援活動が展開できるよう、柔軟で、広い視野を持った活動を実施し、もって本法人の公益事業の拡充を図ることを基本方針とする。

具体的には、国連大学の新たな研究活動及び大学院教育への人々の関心を高めるためのキャンペーン、広報活動を積極的に展開するとともに、国連大学を支援するための募金活動ならびに助成活動を行う。

(旧)

昨年 9 月に就任したオスターヴァルダー国連大学新学長は、着任早々に新構想を提唱し、その構想は、2008 年中に国連大学の新たな新計画として具体的に策定される見通しである。それゆえ、(財)国連大学協力会の 2009 年度における活動は、国連大学における新計画に沿った諸活動を支援していくことを基本方針とする。

しかしながら、国連大学における新計画の策定には国連組織内の手続き等、尚若干の時間を要すると思慮される。そこで、(財)国連大学協力会における 2009 年度の活動は、これまでの国連大学の諸活動の実績を考慮しつつ、国連大学における新計画の方向性を強く認識し、国連大学の新たな新計画策定の暁には、速やかに新計画に沿った支援活動が展開できるよう、柔軟で、広い視野を持った活動を展開し、もって本法人の公益事業の拡充を図ることを基本方針とする。

具体的には、持続可能な社会の実現のために国連大学が実施する研究・人材育成事業を重視した支援活動を展開する。また、国連大学の諸活動に対し我が国国民の関心を高め、支持を強化するための戦略的な取り組みを積極的に展開する。

(New)

Dr. Osterwalder, Rector of United Nations University as of September 2007, has been quick to propose new plans for the institution. At the United Nations University Board of Directors Meeting in December 2008, he directed the passing of two resolutions, one to establish a new research center at United Nations University Headquarters, as well as one resolution to use this center as a base for graduate school education. Accordingly, the Institute of Sustainability and Peace was founded in United Nations University Headquarters in January 2009.

At UNU-ISP, academic work from the two programs Environment and Development, and Peace and Governance, will be joined under the comprehensive theme of Sustainability and Peace, so as to further multidisciplinary research among three thematic sections; Global Change and Sustainability, International Co-operation and Development, and Peace and Security.

UNU-ISP will also develop a base for expanding its activities in Africa, and aims to establish the "twin concept" between UNU-INRA in the Republic of Ghana. Furthermore, United Nations University is also planning to establish a graduate school at this research center, reward M.A. and Ph.D. degrees, and develop highly trained, highly specialized personnel who can combat global problems. Cooperation and exchange are envisioned between this graduate school and top class universities from all over the world, starting with Japan.

In its activities for fiscal year 2009, the Japan Foundation for United Nations University will reflect on United Nations University's achievements up until now, align itself with United Nations University's plans for the future, and act flexibly, supporting UNU's new projects in a timely fashion. Its policy shall be to expand its non-profit activities in this manner.

In concrete terms, the Japan Foundation for United Nations University will develop campaigns and promotional activities to increase public interest in UNU's new research activities and graduate school, as well as conduct fund-raising and supportive functions on behalf of United Nations University.

(Current)

A new vision for the United Nations University, put forward by Professor Osterwalder upon his assuming Rector of the UNU last September, is expected to be formulated into a new plan for the UNU. In light of this, the basic guidelines for the FY2009 operational plan of the Japan foundation for United Nations University is to support various activities of the UNU in line with the new plan.

Due to organizational procedures, formulation of the new plan for UNU will require some time. Taking various past UNU activities into account and rightly acknowledging the concept of the new plan, the Japan Foundation for UNU will take on activities flexibly and from a broad perspective, in order to promptly provide support once the new plan is decided, and by thus further expanding our public-interest activities.

Specifically, the Japan Foundation for UNU will emphasize on support toward research and human resource development activities conducted by the UNU in order to realize a sustainable society. The jfUNU will also actively develop strategic activities to increase interest and support of the Japanese public for UNU activities.

## 【事業計画】【Operational Plan】

### I 寄附金募集活動 [Fund-raising Activities]

(新)

#### 1 国連大学支援のための新たな募金活動の枠組みづくりについて [New plan]

国連大学の新規計画の策定を踏まえて、わが国民間から協力を仰ぐ「国連大学“グローバル サステナビリティ プログラム” 支援募金」の適切なあり方を検討し、国連大学の諸活動を資金的に援助するための募金活動について、新たな取組み体制を検討する。

目標額 5,000,000 円

#### 2 一般寄附金 [General donation] ・協賛募金 [Cosponsored donation]

国連大学の実施するプロジェクトのうち、団体、個人がそれぞれもっとも関心を持つプロジェクトを指定して寄附を行う。

目標額 19,370,000 円

(参考 08 年度実績 個人 6 名、企業 (法人) 23 社 19,360,000 円)

(旧)

#### 1 国連大学支援のための新たな募金活動の枠組みづくりについて [New plan]

国連大学の新規計画の策定を踏まえて、わが国民間からの支援活動として適切なあり方を検討し、国連大学の諸活動を資金的に援助するための募金活動について、新たな取組み体制を構築する。

#### 2 協賛募金 [Cosponsored donation]

国連大学の実施するプロジェクトのうち、団体、個人がそれぞれもっとも関心を持つプロジェクトを指定して寄附を行う。

目標額 19,370,000 円

(参考 08 年度実績 個人 6 名、企業 (法人) 24 社 19,510,000 円)

#### 3 一般寄附金 [General donation]

国連大学のプロジェクト全般に対し、広く国民から随意に受け入れる寄附金。

目標額 5,000,000 円

#### 4 賛助会費 [Dues from supporting members]

国連大学の活動を継続的・安定的に支援するために、「賛助会費」による寄附金募集は極めて重要であり、募金活動を積極的に行う。01 年度より実施してきた「個人会員」に加え、06 年度より開始した「法人会員」の勧奨を推進する。なお、個人会員については、継続会員の増加策を検討する。

目標額 1,000,000 円

(参考 08 年度実績 個人会員・130 名、法人会員・5 団体 1,465,000 円)

## II 国連大学への助成活動[United Nations University Support Activities]

国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要とする分野の活動について、事前に国連大学関係者との十分な連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、国連大学協力会の「国連大学協力会助成・寄附諮問委員会」の十分な審議を経て行うこととする。

助成予定額 計 28,850,000 円

### 1. 国連大学 ISP の研究活動に対する助成[Support for UNU ISP Research Activities]

09 年度において国連大学 ISP が重視している次の 3 つの分野に関する研究活動に対し重点的に助成する。

#### (1) 「地球変動とサステイナビリティ」[Global Change and Sustainability]

##### ① アジア水圏における環境監視と管理プログラム（継続助成）[Environmental Monitoring and Governance in the Asian Hydrosphere(on going support)]

日本、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール、インドネシア、インド、パキスタン等の沿岸水圏（海水、河川水、湖沼）の汚染を防止するため、各国の公的機関や大学における環境汚染化学物質の分析能力向上を目指して行う調査・研究である。ダイオキシンや PCB などの残留性有機汚染物質の検査技術の向上を図り、アジア水圏の良好な環境監視と管理を目指す事業。

（参考 08 年度実績 14,250,000 円）

##### ② その他、国連大学との協議により必要とされる新規事業[And others]

#### (2) 「国際開発と国際協力」[International Co-operation and Development]

国連大学の行う国際開発と国際協力に関する研究活動について、国連大学と充分協議し、必要とされる事業に助成する。

（参考 08 年度実績 200,000 円）

#### (3) 「平和と安全保障」[Peace and Security]

国連大学の行う平和と安全保障に関する研究活動について、国連大学と充分協議し、必要とされる事業に助成する。

（参考 08 年度実績 200,000 円）

### 2. 国連大学の人材養成事業などに対する助成[Support for UNU Training Activities]

##### ① 国連大学グローバル・セミナー（継続助成）[UNU Global Seminars(ongoing Support)]

国連大学が行っている研修活動の内、国内 7 地域で開催されるグローバル・セミナーは、毎年、幅広い観点から、国際平和と環境・開発の問題を取り上げてきた。このセミナーは、日本の若者も多く参加することから、本財団としても従前より強力に支援してきた。09 年度は、そのうち支援を必要とする地域のセミナーに対して支援する。

（参考 08 年度実績 2,053,750 円）

##### ② その他、国連大学との協議により必要とされる新規事業[And others]

3. 国連大学本部における施設・整備に関する助成[ Support for the enhancement of UNU-HQ facilities]

① 国連大学本部の施設維持助成（継続）[ UNU Centre facilities maintenance support(ongoing support)]

国連大学本部の施設維持について引き続き支援する。

（参考 08年度実績 5,000,000円）

② 国連大学図書館図書購入費（継続助成）[UNU Library Book Procurement Fund(ongoing support)]

国連大学図書館の蔵書の充実に資するため、継続して支援する。

（参考 08年度実績 50,000円）

③ その他、国連大学との協議により必要とされる事項[And others]

4. 国連大学高等研究所（IAS）の研究・研修活動（継続助成）[Support for IAS]

国連大学が世界 13 カ国 14 地域に設置している研究・研修センターのうち日本におかれた研究・研修センターである「高等研究所」（IAS）（東京・横浜）に対し、その活動が円滑に推進できるよう支援する。IAS の活動については、06 年度より開始したが、日本におかれた研究・研修センターであることの重要性に鑑み、支援を強化する。

（参考 08年度実績 200,000円）

III 国連大学からの委託事業及び協力事業(Operation Delegated by UNU and another Cooperation]

① 国連大学研修事業における諸費用の徴収事務（継続）

国連大学が実施する事業の業務遂行の合理化を図る観点から、研修事業において、主として日本人参加者からの諸費用徴収にかかる事務委託を受ける。

② 国連大学国際講座参加者への日本文化理解のための協力(継続)

世界各国から参加者のある国連大学国際講座の受講生たちに、研修における在日期间中に日本文化についても理解を高めてもらうため、歌舞伎鑑賞など日本文化に接する機会を提供する。

IV 国連大学への国民の関心を高め、支持を強化するための事業[Programs to strengthen public interest and support for UNU]

国連大学の活動が世界の平和構築、持続可能な地球の実現に不可欠な活動であることについて広く国民の理解を得、幅広い国民各層が、国連大学の活動に高い関心を寄せ、強力な支持が得られるよう、広報・普及活動をより一層強力に推進する。

(1) 広報分野[Publicity Category]

① 各種の広報用パンフレットの作成

国民により親しみがもたれるよう、既存発行資料の編集方針・編集内容の改善、及び新

たな資料の検討を行う。また、本法人への寄附者及び広く国民に本法人の活動実績を知らせ、公益法人としてのアカウンタビリティーを果たす。

- ・ 国連大学協力会の案内書の発行
- ・ 国連大学協力会ニュースレターの発行
- ・ 国連大学協力会活動報告の発行      その他

## ② 国連大学協力会ウェブサイトの充実

09年度は、ウェブサイトの利用状況を分析し、国民の幅広い層が国連大学及び国連大学協力会の情報に関心をもって接することができるよう、コンテンツの充実に努める。また、サイトを介して、本法人への寄附行為、本法人及び国連大学の主催事業への参加など、国民が直接的に本法人の活動にかかわれるような方法を導入する。

## ③ その他、必要な広報・普及事業を実施する

### (2) 講演会等の分野 (継続) [Lecture Category(ongoing activities)]

幅広い国民や企業関係者などから国連大学及び国連大学協力会への関心と支持を高め、国連大学の理念や国連大学が取り組んでいる地球的課題に関するテーマについて、人々の生活や企業活動との関連などの観点から、知識等を普及するための講演会を開催する。

### (3) 調査・研修など分野 [Investigation and Training category]

#### ① UNU 人材養成コース修了生の情報交換の場の提供 [UNU Capacity Development Course Alumni Association(ongoing activities)]

本法人は、1999年度より国連大学主催のグローバル・セミナーの修了生を対象に懇親の場を提供してきた。しかるところ、国連大学実施の他の人材養成コースの修了生からも、情報交流の場に対する希望が出されたため、2006年度に国連大学本部の実施する全研修コース修了生及び IAS のフェローシップ修了生を対象とするフォローアップ研修・情報交流の場を設けた。これを機会に、2007年に、修了生たちにより、“UNU 人材養成コース同窓会”が組織され、本法人がその事務局を担当することとなった。本法人は、国連大学同窓会の事務局を担当するとともに、世界各国で活躍する修了生が今後の活動をより充実させ、地球課題解決に役立てるため、彼らが相互に集い刺激を新たにするための機会として、09年度も引き続き、フォローアップ研修と情報交流の機会と内容の充実を図る。

#### ② その他の必要な調査・研修機を提供する。

以 上